

高校生と大人が 関わり方を対話

長崎・こころ咲良高

長崎市愛宕3丁目の狭域通信制こころ咲良高(平山サナ工校長、5339人)で、子どもの居場所づくりなどに取り組む関係者と同校生徒が学校生活や大人との関わり方について対話する交流会があった。

県と諫早市のNPO法人「SEAMLESS(シームレス)」(上野辰一郎理

事長)が14日に開いた。大人が子どもの声を聞き、活動に生かしてもらおう狙い。

参加した約30人は5グループに分かれ意見交換。「どんな学校生活か」との大人からの質問に、生徒は「勉強もバイトも自分のペースでできる。良い意味で想像と違った」と話した。

大人に気を付けてほしいこととして、生徒が「自分で(物事を)決めようとしている時に干渉され過ぎるのは嫌」「夢に対し現実的な話をされると挑戦する機会を失いそう」と伝え、大人は何度もうなずいた。

2年の下見悠真さん(17)は「話すことで自分を見つめ直す機会になった。いろんな人と関わって視野を広げた」。長崎伝習所「『こどもまんなか』居場所づくり塾」の前田望さん(35)は「友達に話していないことでもさっさと言っていた。自然体で語れる場を増やしたい」と話した。(村瀬晴香)



学校生活や大人との関わり方について話す参加者

＝長崎市、こころ咲良高